

聖書日課 『からし種』 2024.7.14-7.21

<p>7月14日 (日) イザヤ 37章</p>	<p>「はるか昔にわたしが計画を立てていたことを。いにしえの日に心に思い描いたことを／わたしは今実現させた」(26節)。ヒゼキヤ王がイザヤに懇願したように、私たちは眼前の危機からの救いを願う祈りが多い。しかし神は私たちの思いをはるかに超え、「いにしえの日から思い描いていた救い」を実現されていく。スケール大きな神の働きに信頼していこう。</p>
<p>15日 (月) イザヤ 38章</p>	<p>「主が近くにいてくだされば、人々は生き続けます。…わたしを健やかにし、わたしを生かしてください」(16節)。ヒゼキヤ王は死の病を前に、「人生の半ばにあって行かなければならないのか」と涙を流して大いに泣いた(10節)。たとえ権力と富をもった王であっても、神に憐れみを請わねばならない無力を知った時、ヒゼキヤは「主を告白する者」とされたのだった。</p>
<p>16日 (火) イザヤ 39章</p>	<p>「ヒゼキヤはイザヤに、『あなたの告げる主の言葉はありがたいものです』と答えた」(8節)。ヒゼキヤはイザヤに懇願して死の病を癒してもらい、与えられた「15年間の寿命」をどのように生かすことができたのだろうか。私たちもまた、一人ひとり主からいただいた恵みの命を、どのように受け取り、生かすことができているのか。ヒゼキヤの姿から問われる思いがする。</p>
<p>17日 (水) イザヤ 40章</p>	<p>「若者も倦み、疲れ、勇士もつまずき倒れようが／主に望みをおく人は新たな力を得／鷲のように翼を張って上る。走っても弱ることなく、歩いても疲れぬ」(30-31節)。肉体の若さや強靭さでは決して解決できないことがある。魂の救いは、愛と贖いの主の御手に依り頼むほかない。主に依り頼む時、私たちは主の恵みの風を翼に受けて上ることができる。</p>

聖書日課 『からし種』 2024.7.14-7.21

<p>18日 (木)</p> <p>イザヤ 41章</p>	<p>「わたしはあなたを選び、決して見捨てない。恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神」(9-10節)。信仰とは、今日わたしに語りかけ、問いかける主の言葉を聴くこと。もし今日聴こうとしないなら、そこに信仰はない。「わたしはあなたの神！」と、熱く語りかける声に押し出され、遣わされていったイザヤの信仰を想う。</p>
<p>19日 (金)</p> <p>イザヤ 42章</p>	<p>「神は天を創造して、これを広げ／地とそこに生ずるものを繰り広げ／その上に住む人々に息を与え／そこを歩く者に霊を与えられる」(5節)。恵みをもってわたしの名を呼び、わたしの手を取ってくださる方(6節)は、わたしに霊を吹き込み、生かしてくださる方。この方の霊の力によってのみ、私たちは明日に向かう新しい一歩を踏み出すことができる。</p>
<p>20日 (土)</p> <p>イザヤ 43章</p>	<p>「わたしは主、あなたの神。イスラエルの聖なる神、あなたの救い主。…わたしの目にあなたは価高く、貴く／わたしはあなたを愛し…」(3-4節)。聖書には最初から最後まで私たち一人ひとりを受しておられる創造主の語りかけが響いている。水の中を通る時も火の中を歩く時も、「わたしはあなたと共にいる」(2節)と語りかけたもう主の御言葉に生かされたい。</p>
<p>21日 (日)</p> <p>イザヤ 44章</p>	<p>「わたしは乾いている地に水を注ぎ／乾いた土地に流れを与える。あなたの子孫にわたしの霊を注ぎ／あなたの末にわたしの祝福を与える。わたしはあなたの背きを雲のように／罪を霧のように吹き払った。わたしに立ち帰れ、わたしはあなたを贖った」(3・22節)。主はわたしたちの罪を赦し、役に立たない偶像ではなく、御子イエスを遣わして下さった。</p>